

令和5年度

## 青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課  
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、令和5年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月7日(火)に実施し、6,973人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語、英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には16点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、数学が0.5点、社会が0.1点上回り、国語が1.6点、理科が6.3点、英語が3.4点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「令和5年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科の受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	1	0.0	5	0.1	14	0.2	3	0.0	1	0.0
90～99	168	2.4	241	3.5	166	2.4	71	1.0	227	3.3
80～89	1,043	15.0	678	9.7	678	9.7	353	5.1	680	9.8
70～79	1,933	27.7	1,043	15.0	1,104	15.8	738	10.6	789	11.3
60～69	1,749	25.1	1,155	16.6	1,199	17.2	1,081	15.5	842	12.1
50～59	1,115	16.0	1,212	17.4	1,073	15.4	1,348	19.3	933	13.4
40～49	585	8.4	1,050	15.1	824	11.8	1,370	19.7	992	14.2
30～39	224	3.2	762	10.9	658	9.4	1,072	15.4	1,039	14.9
20～29	105	1.5	505	7.2	587	8.4	638	9.2	890	12.8
10～19	37	0.5	270	3.9	467	6.7	258	3.7	507	7.3
0～9	7	0.1	46	0.7	197	2.8	35	0.5	67	1.0
0(再掲)	0	0.0	2	0.0	7	0.1	0	0.0	3	0.0
全教科受検者数	6,967	100.0	6,967	100.0	6,967	100.0	6,967	100.0	6,967	100.0
平均点	65.9		55.7		53.6		50.6		50.6	
標準偏差	14.9		20.3		22.5		18.2		22.5	
最高点	100		100		100		100		100	
最低点	6		0		0		2		0	
前年度平均点	67.5		55.6		53.1		56.9		54.0	

\*得点一覧表の各教科の値(%)は、全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

## 国 語

①の放送による検査は、放送委員会の話し合いを資料を見ながら聞き、内容について捉える力、聞き取った内容をもとに、条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は、「今日の議題」について聞き取る問題であり、正答率は約8割であった。(2)は、「生徒が放送に興味をもてない理由」について聞き取る問題であり、正答率は約9割であった。(3)は、2人の人物の意見を比較して述べたものから適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約9割であった。(4)は、インタビューにおける質問を書く問題であり、正答率は約8割であった。話の展開に注意して、要点を整理しながら聞き取る力を伸ばしていくことが重要である。

②は、漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約8割であり、誤答として、ウ「かもく」を「かんもく」、「ちんもく」などと読んだものが多かった。書字の正答率は約7割であり、誤答として、カ「復旧」を「復急」、「復及」、「普及」などと書いたものが多かった。(2)は、文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。文脈に合わせて正確に意味を判断し、適切な漢字を用いる力を養うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることが大切である。

③は、『おくのほそ道』と『春暁(しゅんぎょう)』からの出題である。(1)アは、歴史的仮名遣いを読む力をみる問題であり、正答率は約9割であった。(1)イは、文章の展開に即して内容を捉え、「幽に見えて」の理由として適切なものを選ぶ問題であるが、本文の内容とは異なる「3」を選んだ誤答が多く、正答率は約6割であった。(1)ウは、文章の展開に即して内容をまとめる問題である。「胸がいっぱいになっている」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約1割であった。条件に即して適切に表現する力を育成することが一層求められる。(2)アは、漢文のきまりに従って読む問題であり、正答率は約8割であった。(2)イは、漢詩の展開の仕方を捉える問題であり、正答率は約8割であった。文章の構成や展開に着目し、文章全体の内容を捉える力をより高めることが重要である。

④は、大嶋義実(おおしま よしみ)の『演奏家が語る音楽の哲学』からの出題である。(1)は、他動詞を全て選ぶ問題であるが、自動詞である「2, 3」を選んだ誤答が多く、正答率は約2割であった。単語のもつ文法的な役割について理解することが必要である。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、指示語の内容をまとめる問題であり、正答率は約5割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、「オーケストラのサウンド」の特徴を表す語句を答える問題であり、正答率は約5割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、「非人間的な社会」について述べたものとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(5)は、文章に表れているものの方や考え方を捉える問題である。Aは、「個性ある音楽家ならではのずれ」が生じる過程についてまとめる問題であるが、与えられた語句を用いていないものや、語句の用い方が文脈に即していないものが多く、正答率は約4割であった。Bは、「オーケストラに反映されている社会のあるべき姿」について答える問題であるが、文脈に沿わない語を挙げる誤答が多く、正答率は約3割であった。文章に表れているものの方や考え方について、書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力を伸ばしていくことが重要である。

⑤は、我孫子武丸(あびこ たけまる)の『残心 凜の弦音』からの出題である。(1)は、文節相互の関係についての理解をみる問題であり、正答率は約3割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、「動揺している様子」を表した語句を答える問題であり、正答率は約9割であった。(3)は、文章の展開に即し

て内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題である。「口が動いたのか」という表現が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約2割であった。(4)は、文章の展開に即して登場人物の心情を理解し、「自分だけの新しいカケ」が欲しい理由についてまとめる問題である。「カケが弓よりも重要である」という内容が不足しているものが多く、正答率は約4割であった。(5)Aは、文章の内容を捉えて、「凜」が「思い出した」ことについてまとめる問題であり、正答率は約4割であった。(5)Bは、文章の展開に即して内容を捉え、「母」の心情について表現する問題であり、正答率は約6割であった。(6)は、表現の効果を理解して内容を捉える問題であり、正答率は約8割であった。文章の構成や展開、表現の仕方について考え、登場人物の言葉や行動に着目しながら文章を読むことが大切である。

〔6〕は、資料と生徒のやりとりから読み取った情報をもとに、意見文を書く問題である。資料の「いいです。」の意味や使い方について気付いたことを書いた上で、それを踏まえて自分の意見を書く、という条件に即して論理的に文章を書く力が求められる。読み取った情報のみを書いて自分の意見を書いていなかったり、気付いたことを踏まえた意見が書かれていなかったりしたために減点されているものが多かった。資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報と自分の意見を整理してまとめることが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)							
1	(1)	4	放資料を送料を開いて	話の内容を的確に聞き取る。	84.3	4	(1)	4	説明的文章を読む	他動詞について理解する。	23.7			
	(2)	4	話の内容と資料との関連を考えて聞き取る。	91.3	(2)		4	文章の展開に即して内容を捉える。	48.1					
	(3)	4	話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。	90.4	(3)		4	文章の展開に即して内容を捉える。	52.2					
	(4)	4	発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる。	78.0	(4)		4	文章の展開に即して内容を捉える。	84.7					
2	(1)	1	読	ア	1	常用漢字を読む。	褐色	92.5	5	A	4	文学的文章を読む	文章に表れているものの方や考え方を捉えてまとめる。	38.6
				イ	1		迅速	90.2						
				ウ	1		寡黙	63.6						
				エ	1		控える	98.0						
				オ	1		狭める	74.9						
	(2)	2	書	学年別漢字配当表の漢字を書く。	カ	1	復旧	39.2	(6)	B	2	文章に表れているものの方や考え方を捉えてまとめる。	文章の展開に即して内容を捉える。	60.8
					キ	1	極秘	67.9						
					ク	1	散策	56.2						
					ケ	1	粉	92.5						
					コ	1	垂らす	87.2						
(2)	2	文中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。	堅実	35.1	(6)	10	意見文を書く	資料と生徒のやりとりから読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点 6.8					
3	(1)	2	古文を読む	歴史的仮名遣いについて理解する。	89.1	6	2	漢詩を読む	漢文のきまりに従って読む。	83.7				
				文章の展開に即して内容を捉える。	61.9									
				文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	9.6									
	(2)	2	漢詩を読む	文章の展開の仕方を捉える。	83.2									

## 社 会

①は、地図の活用や世界の諸地域の特色に関する問題である。(3)は、南半球に位置するウェリントンの雨温図を選択する問題であり、正答率は約6割であった。主な国の位置、経度や緯度と世界の人々の生活や環境を関連付けて捉えることが大切である。(5)は、ザンビアの輸出に関する資料からザンビアの経済の課題について表現する力をみる問題であり、正答率は約5割であった。資料からザンビアの経済が銅の生産と輸出に依存しているため、銅の国際価格の変動がザンビアの貿易による収入に影響を与えていることを読み取り、適切に表現することができなかつたと思われる。地図や資料を活用する地理的技能を身に付けるとともに、地域的特色を様々な視点から捉えることが大切である。

②は、中国・四国地方、九州地方の地域的特色に関する問題である。(1)は、中国・四国地方の中心都市についての理解をみる問題であり、正答率は約7割であった。誤答は、名古屋市、神戸市、福岡市など多岐にわたった。日本の地域的特色と地域区分についての理解が十分ではなかつたと思われる。(2)アは、九州地方で土砂災害が多い理由について、地質と気候を関連付けて思考・判断し、表現する力をみる問題であり、正答率は約2割であった。誤答としては、「水はけが悪い」という内容のものが多く見られ、無解答も多かつた。地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を、そこに暮らす人々の生活や産業などと関連付けて捉えることが大切である。

③は、古代から近世までの農村に関する資料についての問題である。(2)は、鎌倉時代における地頭の支配についての理解をみる問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、管領、執権、武士などが多くみられた。(3)アは、桃山文化として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。古代から近世までのそれぞれの時代の政治や社会、文化などの特色について多面的・多角的に考察することが大切である。

④は、近代から現代までの日本の政治に関する問題である。(3)は、加藤高明内閣の政策により有権者が増加した理由を表現する問題であり、正答率は約2割であった。普通選挙法が成立し、納税額による制限の廃止により有権者が増加したことを適切に表現することができなかつたと思われる。(4)は、1924年から1940年に起こった世界の出来事を年代の古い順に並べ替える問題であり、正答率は2割を下回った。世界恐慌から第二次世界大戦までの世界の動きに関する理解が十分ではなかつたと思われる。日本と世界を大観して、政治、産業、社会の様子などの時代の特色を適切に捉えることが大切である。

⑤は、日本国憲法と現代の民主政治に関する問題である。(3)アは、司法権の独立についての理解をみる問題であり、正答率は約4割であった。誤答は、「内政不干渉の原則」「法の支配」「法の下での平等」など多岐にわたった。国民の権利を守り、社会の秩序を維持するため、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについての理解が十分ではなかつたと思われる。(4)は、選挙の課題について、資料を活用して思考・判断し、表現する問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、「一票の価値が高い」「投票の価値を上げる」などが見られた。選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、選挙権をはじめとする政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについての自覚を養うことが大切である。

⑥は、生活と経済に関する問題である。(5)は、政府が社会資本や公共サービスの提供を行う理由について

て表現する問題であり、正答率は約2割であった。誤答としては、「民間企業が利潤を得るため」「民間企業から利潤をもらうため」といった内容が多く、市場経済の基本的な考え方や政府の役割についての理解が十分ではなかったと思われる。(6)は、国民負担率と国民所得にせめる社会保障支出の割合を表す資料から、日本、アメリカ、スウェーデン、ドイツに関するグラフを適切に選択する問題であり、正答率は約5割であった。4か国の国民負担率と国民所得にせめる社会保障支出の割合を表す資料とそれぞれの国の社会保障の特色を表した文章から、あてはまる国を適切に読み取ることができなかったと思われる。経済活動が我々の社会生活のあらゆる面で密接な関わりをもっていることを、具体的な事例を踏まえて理解することが大切である。

7は、海上輸送に大きな役割を果たしている運河についてまとめた資料をもとに、地理的分野、歴史的分野、公的分野の各分野の知識・理解を総合的にみる問題である。(1)は、スエズ運河とパナマ運河の航路から大陸と海洋についての理解をみる問題であり、正答率は約5割であった。地球規模の位置関係を捉える手掛かりとなる六大陸と三大洋の大まかな形状と位置関係を理解できるようにすることが大切である。(5)は、ODAについての理解をみる問題で、正答率は約5割であった。誤答は、「NGO」や「NPO」、「PKO」や「TPP」など多岐にわたった。国際貢献を含む国際社会における日本の役割についての理解が十分ではなかったと思われる。社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野、歴史的分野、公的分野を相互に関連付けて理解することが大切である。

社会では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、問われている内容を正しく理解した上で、資料から必要な情報を読み取る力、知識や資料を関連付けて、思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)				
1	(1)	2	赤道	96.0	4	(1)	2	近代・現代の政治	伊藤博文	81.1	
	(2)	2	アボリジニ	65.3		(2)	2	原敬が首相を務めた時代の衆議院第一党	55.8		
	(3)	2	ウェリントン	57.3		(3)	3	1920年と1928年の衆議院議員選挙における全人口にせめる有権者の割合	16.5		
	(4)	2	ナイジェリア、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドを支配していた国	73.6		(4)	3	1924年から1940年に起こった世界の出来事の並べかえ	14.4		
	(4)	2	イ	2		南アフリカ共和国の国内総生産、日本からの輸入額、日本への輸出額	37.0	(5)	2	大政翼賛会	47.0
(5)	3	銅の国際価格の変動がザンビアの経済に与える影響	54.0	(6)		3	終戦後の出来事	43.9			
2	(1)	ア	2	広島市	68.1	5	(1)	2	日本国憲法と現代	平和主義	79.9
		イ	2	筑紫平野	54.3		(2)	2	新しい人権	62.4	
		ウ	2	促成栽培	88.5		(3)	ア	2	司法権の独立	44.8
		エ	3	岡山県、長崎県、佐賀県の人口増減数、外国人の<sup>1</sup>宿泊者数、漁業生産量、果実生産量	54.1			イ	2	日本の司法制度	59.2
	(2)	ア	3	九州地方で土砂災害が多い理由	22.5		ウ	3	刑事裁判における検察官の役割	72.4	
イ	2	中国・四国地方の人口、農業生産額、工業生産額、年間商品販売額	33.8	(4)	3	一票の格差	61.4				
3	(1)	ア	2	九州地方の人口、農業生産額、工業生産額、年間商品販売額	31.0	6	(1)	2	生活と経済	ワーク・ライフ・バランス	96.7
		イ	3	口分田	86.5		(2)	2	労働基準法	79.8	
	(2)	3	律令体制における地方行政区分	52.4	(3)		2	国際分業	86.5		
	(3)	ア	2	地頭	35.8		(4)	3	為替の変動	22.7	
		イ	2	安土桃山時代の文化	51.8		(5)	3	政府が社会資本や公共サービスを提供する理由	22.4	
(4)	3	石高	61.8	(6)	3	日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの国民負担率と国民所得にせめる社会保障支出の割合	49.7				
7	(4)	イ	2	農民が円形に署名した理由	60.8	(1)	2	影海に響く海上輸送に関する文に問うる大運河	スエズ運河とパナマ運河の航路	53.7	
		(2)	イ	2	石高	61.8	(2)	3	メソポタミア文明	61.9	
			イ	2	農民が円形に署名した理由	60.8	(3)	3	1869年の後の日本の出来事の並べかえ	47.2	
			イ	2	農民が円形に署名した理由	60.8	(4)	2	ハリケーン	55.2	
			イ	2	農民が円形に署名した理由	60.8	(5)	2	ODA	46.1	

## 数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)の正答率は約8割であり、数と式についての基本的な計算に対する知識や技能は定着していると思われる。(2)は、文字式が長方形の何を表しているかを答える問題であり、正答率は約6割であった。数量を表す式を適切に読み取ることができなかったと思われる。(3)は、学習指導要領改訂に伴い、データの活用の領域から累積度数に関する出題であるが、度数分布表から相対度数及び累積相対度数を求める問題であり、正答率はそれぞれ約7割、約6割であった。(4)は、二次式を因数分解する問題であり、正答率は約6割であった。正しい因数の積の形に表すことができなかったと思われる。(5)は、関数  $y = ax + b$  について、比例定数  $a$  及び切片  $b$  の値を求める問題であり、正答率はそれぞれ約5割であった。 $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量の割合が変化の割合であることの理解が十分ではなかったと思われる。(6)は、平行線で作られる角の大きさを求める問題であり、正答率は約8割であった。平行な2直線と錯角の関係を適切に理解できていなかったと思われる。(7)は、特別な角をもつ四角形の辺の長さを求める問題であり、正答率は約5割であった。誤答は多岐にわたり、図形の特徴を正しく把握することができなかったと思われる。(8)は、データの分布を表す値や箱ひげ図について述べた文として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。4つの選択肢の解答率が同等であることから、データの散らばり具合を表す数値の意味を正しく理解できていなかったと思われる。学習指導要領改訂に伴い、データの活用の領域において四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味が学習内容として追加されたことに留意して、批判的に考察し判断する力を伸ばしていくことが重要である。

②は、平面図形や確率についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、時計回りに  $90^\circ$  回転移動させた点を作図する問題であり、正答率は約5割であった。誤答は多岐にわたり、回転移動について正しく理解できていなかったと思われる。(2)アは、生徒の会話を読み取り、適切な数や位を答える問題であり、正答率は㉞が約7割、㉟が約6割、㉡㉢及び X が約8割であった。問題とそれに対する会話を正しく読み取ることができなかったと思われる誤答が多く見られた。(2)イは、カードを袋から順番に取り出してつくる3桁の整数が350以上になる確率を求める問題であり、正答率は約5割であった。百の位に着目して解くことは理解しているが、条件を満たすカードの組み合わせを適切に求めることができなかったと思われる。

③は、図形について、数学的に考察する過程で見通しを立てて思考・判断し、的確に表現する力をみる問題である。(1)アは、線分の長さを求める問題であり、正答率は約7割であった。 $30^\circ$  と  $60^\circ$  の角をもつ直角三角形の3辺の長さの割合から求めたと思われる誤答が多かった。(1)イの(ア)は、展開図を折ってできる三角錐の体積を求める問題であり、正答率は約2割であった。 $\triangle CEF$  を底面、辺  $AB$  を高さとした三角錐として捉えることができなかったと思われる。(1)イの(イ)は、 $\triangle AEF$  を底面としたときの三角錐の高さを求める問題であり、正答率は1割を下回った。頂点  $C$  と平面  $AEF$  の距離の理解が十分ではなかったと思われ、無解答が多かった。(2)アは、1組の三角形が合同であることを証明する問題であり、正答率は㉞が約7割、㉟が約6割、㉡が約7割であった。証明する上で、仮定をもとに対応する辺や角を正確に捉えることができなかったと思われる。(2)イは、三角形の面積を求める問題であり、正答率は約1割であった。いくつかの仮定や条件を正しく組み合わせて線分の長さを導くことができなかったと思われ、無解答が多かった。

図形がもつ性質を多面的に捉える力を育成することが一層求められる。

④は、関数や図形についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。

(1)アは、点 A の  $y$  座標を求める問題で、正答率は約 8 割であった。式に値を代入する基本的な技能は定着していると思われる。(1)イは、2 点間の距離を方程式で表して比例定数  $a$  を求める問題で、正答率は約 6 割であった。点 A の  $y$  座標を文字式で表すことができなかつたと思われる。(2)アは、2 点を通る直線を求める問題であり、正答率は約 3 割であった。対角線 BD と  $x$  軸とのなす角が  $45^\circ$  であり、傾きが 1 の直線であることを見いだせなかつたと思われる誤答が多かつた。(2)イは、 $\triangle BDE$  の面積が  $80\text{cm}^2$  であるときの比例定数  $a$  の値を求める問題であり、正答率は 1 割を下回つた。等積変形することにより三角形の底辺と高さを明確にし、面積に関する二次方程式をつくることができなかつたと思われ、無解答が多かつた。

⑤は、数学の授業で示された一つの問題から、果物の個数や値段に着目して異なる方程式を立て、考察範囲を上げた場合でも成り立つ性質を見いだしながら二元一次方程式をつくり、その過程で数学的な見方・考え方を働かせて事象を数学的に処理し、解決する力をみる問題である。(1)は、方程式について多面的に考える問題であり、正答率は⑥が約 7 割、⑦が約 6 割であった。文字式で表した果物の個数から適切な方程式をつくるまでの過程の理解が十分ではなかつたと思われる。(2)アは、二元一次方程式の一部分を  $x, y$  を用いた式で表す問題であり、正答率は約 2 割であった。果物の個数と値段の関係を適切に捉えられなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(2)イの⑧は、条件 A を満たす  $x, y$  の値を二元一次方程式から求める問題であり、正答率は約 3 割であった。方程式  $4x + 5y = 60$  を一次関数として処理することができなかつたと思われる。(2)イの⑨は、⑧で導いた値のうち、条件 B を満たす値を吟味し、りんごとなしの個数を求める問題であり、正答率は 1 割を下回つた。誤答としては「(10, 4)」が多く、ホワイトボードで示した条件とプリントで示した二つの条件を混同したと思われる。複数の条件から必要な情報を読み取って思考・判断し、表現することで、日常生活の中で数学を活用する力を伸ばしていくことが重要である。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけでなく、数量や関数、図形、データの活用などに関して基礎となる原理や法則についての理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
①	(1)	ア	3	数と式	③	図形	正負の数の計算 (減法)	98.2	
		イ	3				正負の数の計算 (四則計算)	89.9	
		ウ	3				多項式の計算 (筆算)	66.0	
		エ	3				単項式の計算 (除法)	79.4	
		オ	3				根号を含む式の計算	48.4	
	(2)	4	文字式	59.8	④	(1)	関数	文字式	72.9
	(3)	2	データの活用	累積度数				60.9	
	(3)	2		累積相対度数				55.1	
	(4)	4	因数分解	53.7				(2)	関数
	(5)	2	関数	一次関数の式		76.1			
	(5)	2		一次関数の式		45.0			
	(6)	4	図形	平行線と角		35.5			
(7)	4	図形	辺の長さ (特別な角をもつ直角三角形)	⑤		(1)	関数	二元一次方程式と関数	51.6
(8)	4	データの活用	データの分布を表す値や箱ひげ図の特徴		71.8				
②	(1)	図形	OA=OBとなる垂線上の点の作図	56.5	⑤	(2)	関数	二元一次方程式と関数	26.0
			②	2				71.8	
			③	2				56.5	
	(2)	データの活用	確率	④				3	79.4
				⑤				2	83.8
				X				2	83.8
				イ				3	54.1



## 理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、節足動物についての理解をみる問題で、正答率は約9割、(1)イは、無せきついで動物の特徴を選ぶ問題で、正答率は約7割であった。(2)アは、細胞で生命活動が行われる際に生じるアンモニアを選ぶ問題で、正答率は9割を超えた。(2)イは、腎臓と尿素をより多く含む動脈についての理解をみる問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「静脈」を選んだものが多く、排出のしくみを理解できていなかったものと思われる。(3)アは、風化についての理解をみる問題で、正答率は約8割、(3)イは、地層が堆積する間の海水面の変化を選ぶ問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「4」を選んだものが多く、地層にみられる堆積岩とその地層が堆積した当時の環境を関連付けることができていなかったものと思われる。(4)アは、日周運動についての理解をみる問題で、正答率は約6割、(4)イは、記録した透明半球から日の出の時刻を求める問題で、正答率は約2割であった。日の入りの時刻の19時12分から15時間を引いて「4時12分」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。生物や地学的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、これらをもとに理科の見方・考え方を養い、それを働かせて科学的に探究していくことが大切である。

②は、化学・物理分野の小問集合である。(1)は、ペットボトルの体積を求める問題で、正答率は約7割であった。(2)アは、ダニエル電池に関する理解をみる問題で、正答率は約5割、(2)イは、亜鉛板と銅板の表面の変化と電子の移動する向きについての問題で、正答率は約6割であった。(3)アは、誘導電流についての理解をみる問題で、正答率は約7割、(3)イは、棒磁石を落下させるときの検流計の針のふれの様子について選ぶ問題で、正答率は約2割であった。誤答としては「3」を選んだものが多く、電磁誘導に関する現象を理解できていなかったものと思われる。(4)アは、仕事の原理についての理解をみる問題で、正答率は約6割、(4)イは、物体を斜面に沿って移動させたときの距離を求める問題で、正答率は約4割であった。床からの高さ40cmを2倍した「80cm」など、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。化学や物理的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、科学的な見方や考え方を働かせ、結果を分析して解釈する力を養っていく必要がある。

③は、生態系における生物の働きに関する問題である。(1)アは、生産者についての理解をみる問題で、正答率は9割を超えた。(1)イは、生物の呼吸による炭素の流れの理解をみる問題で、正答率は約5割であった。誤答としては「B, C, D」を選んだものが多く、分解者の働きについて理解できていなかったものと思われる。(1)ウは、食物網についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(2)アは、微生物の働きによるデンプンの分解に関する問題で、①、②の正答率はそれぞれ約6割、4割であった。(2)イは、アルミニウムはくで試験管にふたをせずに実験を行ったときのヨウ素液の色が変化しない理由を選ぶ問題で、正答率は約5割であった。

④は、金属の酸化に関する問題である。(1)アは、マグネシウムの酸化のようすを化学反応式で表す問題で、正答率は約7割、(1)イは、酸素と反応したマグネシウムの質量を求める問題で、正答率は約2割であった。表の1.56gから1.20gを引いて「0.36g」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、銅粉を加熱したときに見られる変化についての問題で、正答率は約6割、(2)イは、加熱後の物質の質量が一定になったときの結果をもとに、銅と結び付いた酸素の質量の関係をグラフで表現する問題で、



正答率は約4割であった。銅と結び付いた酸素の質量の関係を正しく表現できていない誤答が多く、無解答も多かった。(3)は、マグネシウムと銅の質量と原子の数についての問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「2」を選んだものが多く、質量と原子の数の関係を理解できていなかったものと思われる。(4)は、マグネシウムと銅の混合物について、加熱前の銅の質量を求める問題で、正答率は2割であった。反応前後の質量を引いて「0.4g」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。実験1, 2の結果と関連付けながら思考・判断し、数値を的確に処理することができなかったと思われる。

⑤は、凸レンズによってできる像について調べる実験に関する問題である。(1)アは、虚像についての理解をみる問題で、正答率は約6割であった。(1)イは、凸レンズを物体に少しずつ近づけたときの凸レンズを通して見える文字の像の変化を選ぶ問題で、正答率は約1割であった。誤答としては「1」を選んだものが多く、実像と虚像の違いを理解できていなかったものと思われる。(2)アは、実験結果から凸レンズの焦点距離を求める問題で、正答率は約5割であった。(2)イは、物体から凸レンズまでの距離を求める問題で、正答率は約1割であった。表から規則性を見いだすことができなかったものと思われる。誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)ウは、スクリーンにうつった文字の像を図で表現する問題で、正答率は1割を下回った。上下左右を反転させ長さを1倍としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。

⑥は、日本の天気に関する問題である。(1)アは、積乱雲についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(1)イは、停滞前線についての理解をみる問題で、正答率は約8割であった。(1)ウは、停滞前線と気団の関係についての理解をみる問題で、①, ②, ③の正答率はそれぞれ約5割, 3割, 4割であった。②の誤答としては「小笠原気団」が多く、③の誤答としては「東」が多かった。(2)アは、冬の天気図を日付の早い順に並べる問題で、正答率は約5割であった。(2)イは、日本海側に雪が降るしくみに関する問題で、正答率は約5割であった。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)			
①	(1)	ア 2	無せきつい動物	88.8	④	3	マグネシウム粉末と銅粉の加熱	マグネシウムの酸化の化学反応式	71.2	
		イ 3	無せきつい動物の特徴	74.4				(1) イ 3	酸素と反応したマグネシウムの質量	19.7
	ア 2	不要物の排出	95.0	(2) ア 2				銅粉を加熱したときに見られる変化	55.3	
	イ 3	腎臓、尿素が多く含まれる血管	42.7	(2) イ 3				銅と結び付いた酸素の質量の関係	43.9	
	(3)	ア 2	風化	77.3	(3)	3	マグネシウムと銅の質量と原子の数	35.4		
		イ 3	地層の堆積環境	40.3	(4)	3	混合物中に含まれていた銅粉の質量	15.2		
	(4)	ア 2	日周運動	61.8	⑤	3	凸レンズの働き	虚像	62.3	
		イ 3	太陽の日周運動	23.9				(1) イ 3	凸レンズを通して見える文字の像	13.6
②	(1)	3	プラスチックの密度	66.2				ア 3	焦点距離	51.0
		ア 2	ダニエル電池	49.9				(2) イ 3	物体から凸レンズまでの距離	11.3
	イ 3	電磁誘導	62.7	ウ 4	スクリーンにうつった文字の像	8.4				
	ア 2	仕事の原因	59.8	⑥	3	日本の天気の特徴	積乱雲	65.0		
イ 3	物体が斜面に沿って移動した距離	41.9	イ 3				停滞前線	78.5		
(4)	ア 2	生産者	91.9				(1) ウ ① 1	停滞前線と気団の関係	45.2	
	イ 3	生物の呼吸による炭素の流れ	48.8					② 1	冬の天気図の移り変わり	27.5
③	(1)	ウ 3	生態系における生物の働き	68.6	③ 1	日本海側に雪が降るしくみ		42.8		
		ア ① 2	微生物のはたらきによるデンプンの分解について	62.7	(2) ア 3		51.4			
	イ ② 2	アルミニウムでふたをする理由	42.0	イ 4			54.6			
	イ 3		52.6							

## 英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語による説明と質問を聞いて適切な絵や表現を選ぶ問題で、正答率は、ア及びイが約7割、ウが約5割であった。(2)は、「夢」に関するスピーチを聞いて、その内容についての質問に答える問題で、正答率は、アが約9割、イが約8割、ウが約5割であった。(3)は、対話を聞いて、その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ問題で、正答率は、アが約8割、イが約7割であった。(4)は、外国語指導助手の話聞いて、質問に対する自分の考えを適切に英文で表現する問題である。誤答としては、内容の理解が十分ではないものや、「過去の思い出」について書かれているものが見られた。問いの内容を正しく理解した上で、自分の考えを適切に英語で書く力を高めていく必要があると思われる。

②は、中学生とアメリカ人留学生による、「日本での数字の読み方」についての対話を題材とした問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語を並べかえる問題であり、正答率は、アが約7割、イが約3割、ウが約4割であった。アは、「助動詞で始まる疑問文」を問う問題であり、この形は概ね定着しているようである。イは、「主語＋動詞＋目的語」の文構造のうち、目的語が「whatなどで始まる節」になる問題である。「what do you」で書き始めている誤答が多く、「whatなどで始まる節」を目的語とする文構造についての理解が十分ではないと思われる。ウは、基本的文構造及び「不定詞の形容詞的用法」を問う問題である。「remember」を名詞として用いている誤答が多く見られ、基本的な単語の使い方への理解が十分ではないと思われる。(2)は、対話の流れから、「never」を空所に入れる問題で、正答率は約8割であった。(3)は、下線部の内容を英文で書く問題である。1では、「現在完了進行形」が定着していないと思われる誤答が多かった。2では、「比較級」についての理解が十分ではないと思われる誤答が多かった。基本的な文法事項を適切に組み合わせて表現する力を育てていくことが大切である。

③は、アメリカ人留学生とホストファミリーの母による、「米から作られるチーズ」についての対話を題材とした問題である。(1)は、本文中の空所に入る最も適切な英文を選び、対話を成立させる問題である。正答率はAが約8割、Bが約6割、Cが約5割であった。対話の内容を理解し、流れに即したやりとりができるように、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の技能統合的な活動に日常的に取り組んでいくことが求められる。(2)は、対話の内容を理解し、必要な情報や概要を選ぶ問題で、正答率は約6割であった。対話の内容を部分的に捉えるのではなく、全体の概要を把握しながら読み進める活動を行っていくことが求められる。

④は、中学生による、「自分にとって言語とは何か」についてのスピーチを題材とした問題である。(1)は、スピーチの内容に合うように、日本語の要約文の空所に適切な語を書く問題で、正答率は、アが約5割、イが約4割、ウが約2割であった。(2)は、本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。正答率は、1が約2割、2が約5割、3が約2割であった。1と3は、代名詞を正しく用いていない誤答が多く、2は、英文として成立していない誤答が多かった。(3)は、「自分が話をしてみたい人」について、簡単な語句や文を用いて、自分自身の考えをまとまりのある英文で書く問題である。基本的な文構造への理解が十分ではないと思われる誤答が多く見られた。また、前置詞を正しく使用できていないことによる誤答や、目的語が書かれていないことによる誤答も見られた。日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを整理して、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を英語で表現する活動を継続して行っていくことが大切

である。

⑤は、高校生が、妹と「二次元コード」についてやり取りしたことをきっかけに、身の回りのイノベーションの可能性について考えるという場면을題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切な英文を選ぶ問題である。正答率は、アが約3割、イが約2割、ウが約4割、エが約3割であった。英文の一部分を解答の根拠とするのではなく、文章全体の展開を追って概要を把握していく必要がある。(2)は、下線部の内容を日本語で説明する問題である。内容の理解が十分ではないことによる誤答が多かった。(3)は、本文の内容を踏まえて、英語の要約文の空所に入る適切な語を選び、要約を完成させる問題である。正答率は、アが約4割、イが約1割、ウが約4割であった。この問題も、英文を部分的に捉えるのではなく、文章全体の概要を把握する力が求められる。

英語では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、英文の概要や要点を正確に理解する力や、自分の考えや気持ちなどについて、状況に合わせて、まとまりのある文章で適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)			
①	(1)	英語による説明と質問を聞いて、適切なものを選ぶ。	ア 3	65.8	④	(1)	スピーチの内容に合うように、日本語の要約文の空所に適切な日本語を書く。	ア 2	50.2	
			イ 3	68.4				イ 2	38.1	
			ウ 3	48.6				ウ 2	22.7	
	(2)	スピーチを聞いて、その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ。	ア 3	91.1		ライディング	(2)	スピーチの内容についての英語の質問に英語で答える。	1 3	22.6
			イ 3	76.5					2 3	50.9
			ウ 3	51.3					3 3	20.8
	(3)	対話を聞いて、その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ。	ア 3	80.7		(3)	6	20語以上の英語で、自分の考えを書く。	平均点 2.6	
			イ 3	72.1						
	(4)	3	英文と質問を聞いて、それに対する自分の考えを英語で書く。	平均点 1.2						
	②	(1)	英文の意味が通るように、語を並べかえる。	ア 2		70.0	⑤	(1)	本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切な英文を選ぶ。	ア 3
イ 2				33.3	イ 3	21.9				
ウ 2				44.8	ウ 3	43.2				
(2)		英文の意味が通るように、適切な語を選ぶ。	ア 2	75.4	ライディング	(2)		下線部の内容を日本語で説明する。	エ 3	29.5
			イ 2	44.8					平均点 0.4	
(3)		下線部の内容を英文で書く。	1 3	平均点 1.1	(3)	ア 3		本文の内容と合うように、英語の要約文の空所に入る適切な語を選ぶ。	平均点 1.2	40.1
	2 3		平均点 1.2	イ 3			12.0			
③	(1)	対話を読み、対話が成立するように空所に入る最も適切な英文を選ぶ。	A 3	81.6	ライディング	ウ 3		平均点 1.1	38.3	
			B 3	59.8						
			C 3	54.7						
	(2)	対話を読み、必要な情報や概要を選ぶ。	2							
			2	57.6						